

実際カナダへ行ってみると思ったよりも英語がネイティブなため、なかなか聞き取るのが難しく、理解出来ない部分も多く不安でいっぱいだった。しかし、カナダ生活の後半は、ホストファミリーや研修先の人達のおかげでネイティブの英語に慣れていったため段々、話している事が聞き取れるようになってきた。買い物なども1人で済ませるのが難しかったが、後半は日常的なものは全て一人で出来る様になった。また、研修先であるアルバータ大学の先生や生徒達、ホストファミリーは皆、優しく、聞き取れない言葉などは、身振り手振りを使ったり、分かりやすい単語を使って教えてくれたり、ゆっくりと話してくれたり、様々な工夫をしてくれたため、日常会話や新しい語彙を覚えることが出来た。このおかげで英語の知識を増やすことが出来、英語を話すことの楽しさを感じた。

他にも研修先ではオールイングリッシュで授業が展開され、先生の説明が終わった後、グループでの協力作業をした。グループ内では英語で話さなければいけなかったため、ここでは今まで学んできた知識をアウトプットすることが出来た。最初は緊張などもあって上手く発言出来なかったがグループの皆もとても優しく話しを振って助けてくれたため、最終的には発言出来るようになっていった。そのため、ホストファミリーなどと段々と自信を持って会話が出来るようになっていった。ネイティブが使ってる文法や、撥音の仕方などをより勉強することが可能となった。また、授業ではカナダの文化やカナダが多様性の国であるということも学んだ。カナダがどのような国なのかを詳しく知ることが出来た。また、午後からのアクティビティでは様々な所に訪問したり、色々な人と話す機会が設けられた。訪問したところの歴史やカナダの歴史を知ったり、ゲームをして遊んだりと様々な経験をつむことが出来た。英語で色々な人と話したりミニゲームをすることで緊張せずに自然に英語を話すことが出来た。

ホームステイ先では最初は緊張のため翻訳を使って会話していたが、最後には翻訳がなくとも会話することが出来るようになった。これは毎日が英語浸けだったからだと思う。短い期間だったが、得るものが多い貴重な三週間だった。また、学校が終わった後や週末などホストファミリーは色々な場所へ私を連れて行ってくれたので、毎日をとっても楽しく過ごせた。ホームステイをしたことで、カナダと日本の食文化の違いなども経験として感じる事が出来た。朝ごはんはシリアルとか。お肉メインとか。また、日本人に対して様々なステレオタイプを持っていることが分かった。日本人は皆お寿司が好きとか。スプーンやフォークを使わずになんでも箸だけを使って食事をするとか。その誤解を話し合うのも、楽しい時間だった。